※令和４年度以降入学生用

学校番号	1010

令和８年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	2･3 年次
使用教科書	美術２（光村出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術Ⅰで学んだ内容を発展させながら､抽象表現や日本美術など今までの授業で接する機会の少なかった表現・技法に挑戦します。また美術系の進路を希望する生徒の皆さんに対応できるよう、デッサンなど基礎訓練的な内容も取り上げていきます。表現として完成度の高い作品をめざします。

2　学習の到達目標

・美術の幅広いジャンルの作品に触れ、またそれらを生かした創造活動を通して、美術表現の多様さを知り、技能、知識を学ぶ。
・造形的な見方・考え方を働かせて制作テーマを生成するとともに、学んだ表現方法や知識を生かして美しい表現につなげる。
・魅力ある表現となるよう、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わり、粘り強く制作する態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表している。美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	教科書の鑑賞	教科書の年表を見ながら西洋の絵画の歴史を知る。また、教科書の中で一番気に入った作品を絵具を使用し模写する。また、自分の作品、友人の作品を鑑賞し感想文を書く。	a:作品の固有な技法を教科書から読み取り写し取る。 b:絵具の混色を学ぶ。自分だけの色を作る。 c:友人の作品を鑑賞できたか。自分の作品を鑑賞できたか。作品の良さを味わい、感想をかけたか。	題材の固有の技法を感じ、制作できたか。	作品固有の色を再現するために混色できたか	取り組む態度。作品の感想文。

※令和４年度以降入学生用

	風景画	教室から出、校舎内の風景を描く。木を中心とした絵に仕上げる。技法は印象派を引用する。遠近法にも意識を向ける。	a:印象派の歴史を知る b:補色を下地に塗り、より印象派の点々とした描き方が目立つようにする。 c:友人と自分の絵を鑑賞する。また作品の良さを味わい感想を書く。	印象派について知識を得たか。書き方を学ぶことができたか。	補色を活かせたか。遠近法を使いこなせているか。	制作態度。友人の作品の鑑賞。作品の感想文。
二学期	張り子で招き猫	日本古くから伝わる張り子の技術を学ぶ。招き猫の役割を学ぶ。土粘土の性質をしる。完成した張り子にはアクリル絵の具で着色する。	a:張り子の歴史を知る。土粘土の性質を知る。 b:粘土で猫を作る。紙の中の粘土を取り出し張り子を完成させる。着色する c:友人の作品、自分の作品を鑑賞する。感想を伝え合う。書く。	張り子、土粘土についてしることができたか。	張り子を完成させ、着色もできたか。	作品について自分の感想を述べることができたか。感想文をかけたか
	デッサン	3点程度の素材感や形態の違うモチーフを構成し、鉛筆を使ってデッサンする。	a: モチーフを良く観察して、素材や空間を描き分け表現することに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 b: 光の諧調の描き分けや形の取り方、空間の表現方法を身に付け、目の前のモチーフを創造的に描きだそうとしている。 c:友人の作品、自分の作品を鑑賞する。よいところ、直したほうがいいところを言い合う。	素材の配置の仕方を工夫する。素材によって書き方を変えようとしているか。	光の書き方、影の書き方をかき分けようとしているか。	作品について、友人と改善点を言い合う。感想文をかく。 活動の様子。 取り組む姿勢。
三学期	コラージュ	『構成美の要素』を説明する。教科書に掲載されている作品の写真を使ってフォト･コラージュする。 コラージュする時は、『構成美の要素』の中からいくつかの要素を選んで写真を構成する。	a: 興味を引かれた写真を集め、それらからイメージを膨らませて主題を生成し、創造的な表現世界を構築する。 b: :コラージュに使用する写真を選ぶ中で、またはそれらをコラージュする際に『構成美の要素』を活用することで、より画面構成と作品鑑賞を深めることができている。 c:友人の作品と自分の作品を鑑賞する。	素材や構成を工夫する。素材の配置や組み合わせに工夫があるか。	素材をいかし、創造力豊かな表現をしようとしているか。	活動の様子 取り組む姿勢 友人の作品をか

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度